

モレラ岐阜 テナント入れ替えで大量廃棄



内装材を再利用したプランターカバーとサインスタンドを紹介する龍沢さん(右)=本巣市三橋のモレラ岐阜で

内装材 脱「作って壊して」

テナントが頻繁に入れ替わる大型商業施設では、そのたびに大量の内装材がごみとして捨てられる。こうした現状を変えようと、本巣市三橋の商業施設「モレラ岐阜」では、内装材の一部を再利用してプランターのカバーなどを作り、施設内で活用している。(菅谷仁志)

内装材の再利用から生まれたのは、植物のプランターを囲う木製のカバーと、施設からのお知らせなどを掲示するサインスタンド。いずれも素材は、アパレルや飲食のテナ

ントを入れ替える際、撤退する店舗で使われていた内装材。プランターカバーは壁の装飾部分を、サインスタンドは商品棚を主に使った。3セツトを準備し、買い物客が行

プランターカバーなどへ再利用

き交う通路などに置いている。

手がけたのはテナントの内装などを請け負う「スペース」(東京)。同社によると、オフィスなどであれば内装材を再利用できることも多いが、商業施設のテナントの場合はそれぞれに独自のデザインなどがあるため、異なる店舗のものを使うことは難しく、再利用が進まないという。

このため、テナントの入れ替え時に出る廃棄物は、例えば木材であれば細かく砕かれ、燃料などとして使われるケースが多い。スペースが今年2〜3月にモレラ岐阜で手がけた原状回復では、5店舗分で4トトラック十数台分もの廃棄物が出た。

スペースは今後、廃棄物削減を目指して、全国的にさまざまな形で再利用を進めたいとしている。リプロダクト推進室の龍沢知佳室長(32)は「新しく作る方がコストがかからず、再利用はあまり考えてこられなかった」と業界の問題点を指摘し、「作って壊してを繰り返すしかなかった、これまでのあり方を見直していきたい」と話した。